

図画工作、美術 表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成する授業づくり

創造活動の学びを深めるためには、児童生徒一人一人が「造形的な見方・考え方」を働かせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させた学習が充実するようにすることが大切です。そのためには、児童生徒が対象や事象に関わり、「思考力、判断力、表現力等」を働かせる内容*（以下、この内容のことを「学習の中心」と表記）を明確にし、指導の手立てを工夫していくことが求められます。次の①～③などがポイントとして考えられます。

*図画工作科では、教科の目標(2)前半部分「造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考え」に当たる。

- ①対象等を造形的な視点で捉えさせ、気付きを引き出しながら、学習の中心を意識して活動できるようにする。
- ②児童生徒が表現を試す、考えを交流するなど、学習の中心を軸に造形的な視点で対象や事象を捉える場を充実させる。
- ③表現や鑑賞の能力を発揮している児童生徒の姿を、学習の中心を軸として造形的な視点で見取り、指導と評価に生かす。

【題材例】小学校第3学年「くんで ひろがる ダンダンボール」 指導事項：A表現(1)ア，(2)ア他

学習の中心：段ボールと体育館の広い場所を基にして、つくりたいこと、つくり方などについて考えたり、自分たちのつくったものや活動の過程などの、造形的なよさや面白さなどについて考えたりする。

T：段ボールと体育館の広い場所を使ってどんなことができるかな？①
S1：いろいろな形ができそうだな。S2：積み重ねることもできるよ。
S3：広げてつなげてみるとどうなるかな。

発想や構想

T：教師による指導の手立て
S：児童が造形的な見方・考えを働かせる姿
下線部：資質・能力を相互に関連させながら創造活動の学びを深めている姿

T：段ボールの形からイメージが膨らむね。①
S2：積み重ねると木のようなあ。
S3：つなげてみると迷路ができそうだ。



学習の中心

T：どんなことができたかな。②
S1：見て見て！木の中に面白い形が隠れているよ！
S3：わあ！段ボールの間から光が入ってきれい！

T：思い付いたことをどんどん試そう。②
S1：段ボールカッターでいろいろな形を切り抜いたよ。
S2：大きな木になったよ。中に入れるように入口もつくりたいな。
S3：丸めるとカーブをつくることのできたぞ。大きな段ボールを使ってもっともっと長い迷路にしよう！
T：体育館の広さを生かして想像を膨らませているね。③

技能

鑑賞

S1：組み合わせてみたらこんな形になったよ。
T：面白い形だね。段ボールでこんなこともできるんだね！③
S2：これを上に載せると、木の枝が広がったように見えるかな。私のつくった木と組み合わせてみようよ！

「つくり、つくりかえ、つくる」という学びの過程を重視し、思い付くままに試みる自由さや、始めから具体的な作品をつくることを目的にしないことなど、造形遊びをする活動の特性を生かしながら指導を工夫します。

